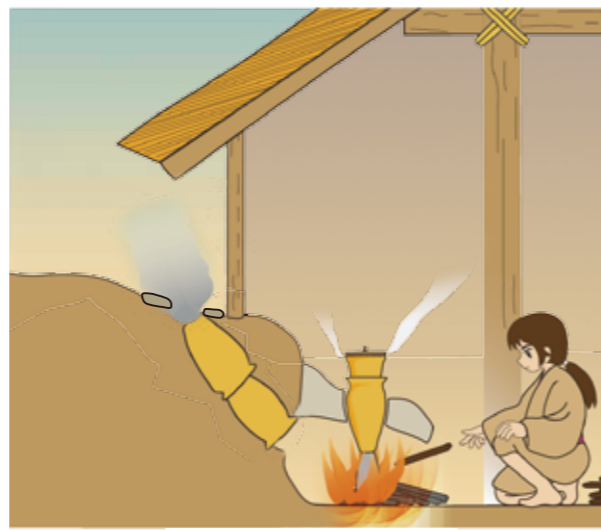


奈良・平安時代

今回の調査では、古墳時代後期から断続的に続く集落が発見されました。この時期の住居はカマドをもつ竪穴住居が主体となり、掘立柱建物も見ついています。小谷戸の崖裾を広く利用していたことがわかり、特に小谷戸の東側となる入口近く(今回の遺跡見学会実施周辺)から数多くの竪穴住居が確認されました。調査全体を通じて奈良・平安時代の遺物が最も多く出土していることから、この時代の利用が非常に盛んであったことを裏付けるといえるでしょう。調査地の集落は、10世紀中頃まで続いたようです。



カマドと煙道のイメージ

中世前期(鎌倉時代～南北朝時代)

集落が廃絶した後、平安時代末から寺院として利用されていたようです。調査で平安時代末から中世初頭の瓦が出土していることから、うかがうことができます。調査地周辺は、平安時代末に創建された「極楽寺」が所在したという伝承が残る地域でもあります。今回の発見がそれに直接繋がるのかは、今後更なる精査が必要ですが、可能性があるといえるでしょう。

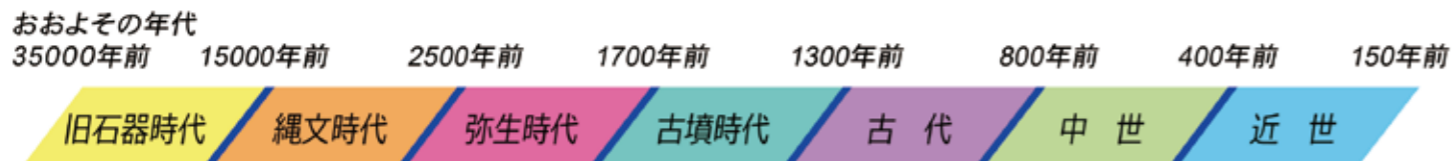
今回発見されたC1号石組み遺構は、第2次調査のC1～3号石組み遺構と一連の遺構と考えられます。火処、排水施設、貯水施設?(今回発見遺構)と考えられる遺構がまとまって見つかったのは貴重といえます。寺院におけるこのような施設としては、湯屋(または風呂)が考えられますが、厨(台所)などの可能性も考えられます。いずれにしても、このような特殊な遺構が存在することからも、調査地は寺院域であった可能性が高いといえるでしょう。



『一遍上人絵伝』に描かれている風呂

引用・参考文献

土ほか 2016『上粕屋・和田内遺跡第2次調査』神奈川県埋蔵文化財発掘調査報告書40 国際文化財株式会社
※写真提供: 神奈川県教育委員会



※赤矢印は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。

一般国道246号(厚木秦野道路)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



かみ かす や わ だ うち
上粕屋・和田内遺跡

主催 (公財) かながわ考古学財団
共催 伊勢原市教育委員会

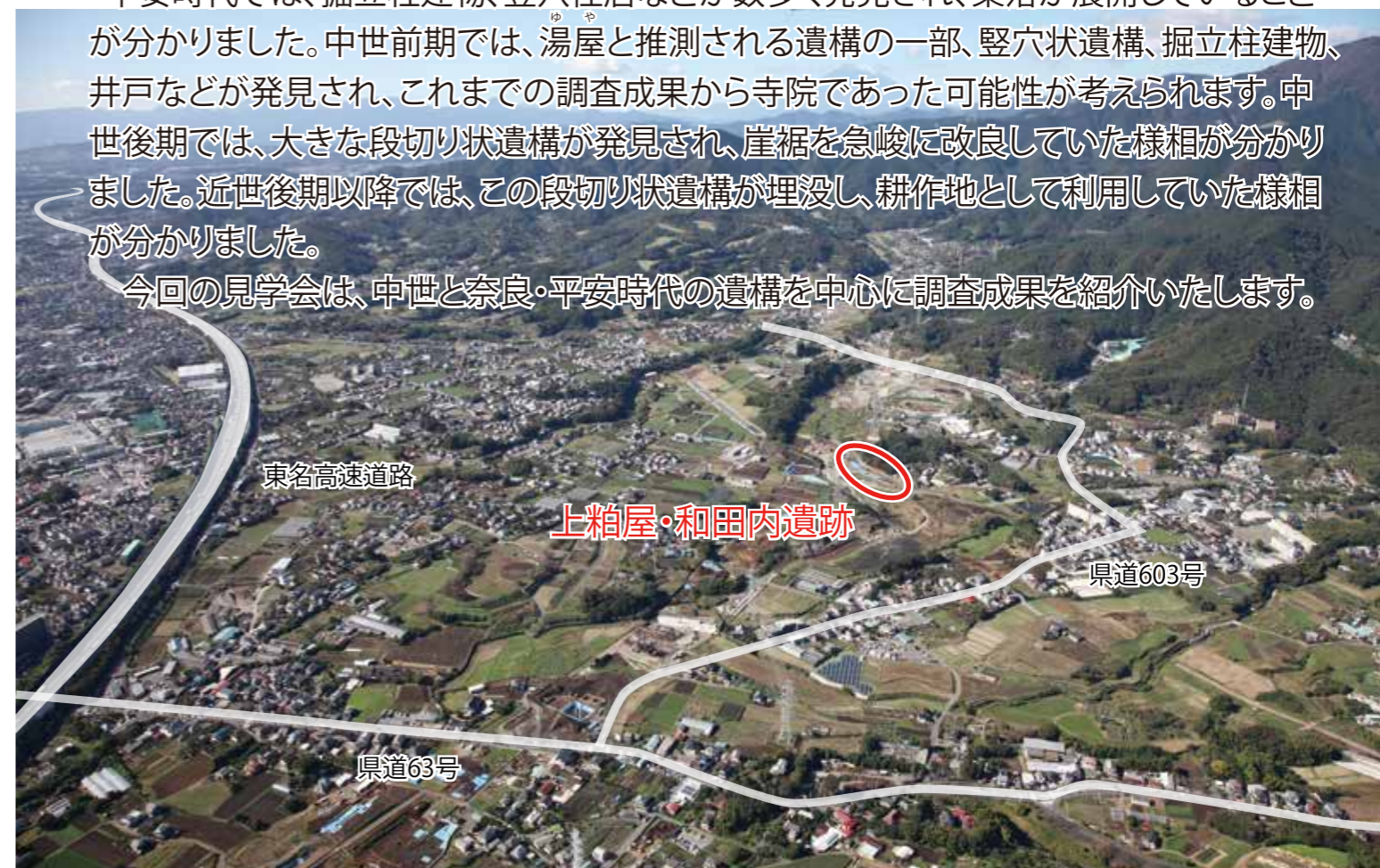
中世 ^{ゆ や}湯屋(か?)の一部を発見
奈良・平安時代 竪穴住居

上粕屋・和田内遺跡の発掘調査

伊勢原市上粕屋に所在する上粕屋・和田内遺跡は、国土交通省が計画する一般国道246号(厚木秦野道路)建設事業に伴い、2014(平成26)年11月から発掘調査を実施しています。上粕屋・和田内遺跡としては、第4次調査となります。

遺跡は、大山に端を発する河川によって作られた小谷戸の崖裾に位置しており、その平場を利用しながら生活をしてきた状況が分かりました。これまでの調査で、縄文時代では、「落とし穴」や集石、敷石住居、竪穴住居が発見されました。古墳時代後期から奈良・平安時代では、掘立柱建物、竪穴住居などが数多く発見され、集落が展開していることが分かりました。中世前期では、湯屋と推測される遺構の一部、竪穴状遺構、掘立柱建物、井戸などが発見され、これまでの調査成果から寺院であった可能性が考えられます。中世後期では、大きな段切り状遺構が発見され、崖裾を急峻に改良していた様相が分かりました。近世後期以降では、この段切り状遺構が埋没し、耕作地として利用していた様相が分かりました。

今回の見学会は、中世と奈良・平安時代の遺構を中心に調査成果を紹介いたします。



考古学財団

一般国道246号(厚木秦野道路)建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査
上粕屋・和田内遺跡 見学会資料
2016年6月4日
公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市中区中村町3-191-1
Tel 045-252-8689 http://kaf.or.jp/



「地域の特色ある
埋蔵文化財活用事業」